

平成19年度スジアオノリ養殖概況

加藤慎治

平成19年度漁期の概況は、吉野川では例年どおり天然採苗が開始された。しかしながら高水温による天然採苗の不調により養殖開始時期が遅れたため、11月の共販入札会では数量で前年比29%と振るわなかった。以降は水温の下降とともに順調な生産となり、漁期全体としては平年並みとなった。

1 人工採苗用の母藻の生産と配布

大津、川内、応神町、徳島市第一、渭東、徳島市辰巳および今津の各漁協へ母藻を配布した。配布母藻は吉野川産広域温度対応株(Y1124)であった。

2 平成19年度漁期の共販結果

図1に平成19年度、18年度の徳島県漁連共販数量を、図2に年度別共販数量と平均単価の推移を示した。価格は平成16年漁期の不作以降高値で推移しており、平成19年度漁期の共販実績は数量76トン、金額5.8億円であった。

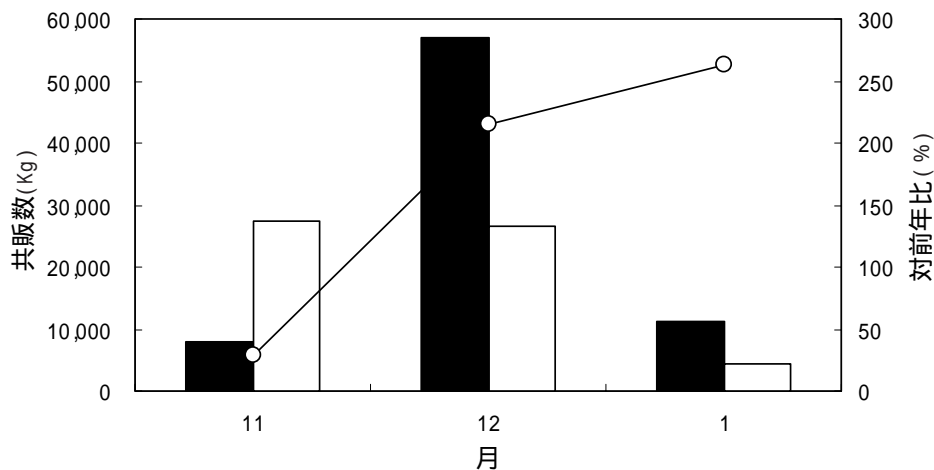


図1 月別共販数量の推移。 ，平成19年度； ，平成18年度； ，対前年比

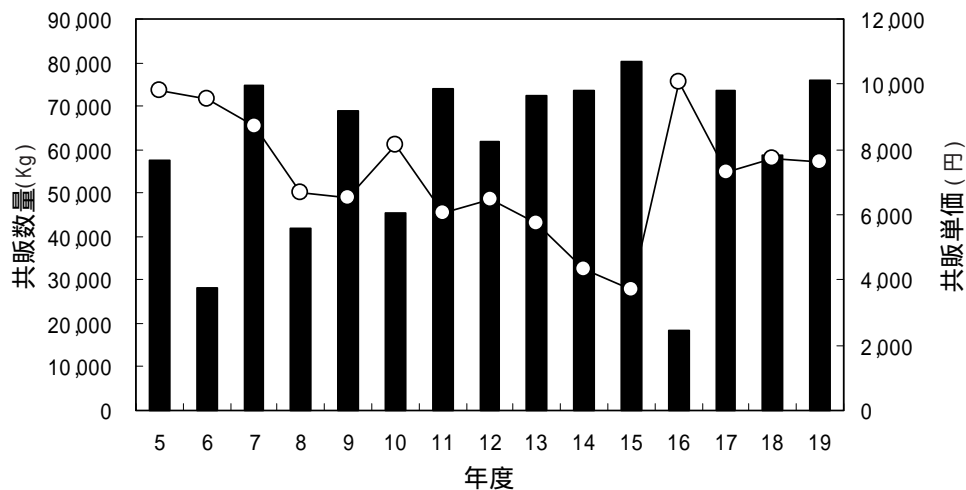


図2 年度別共販数量と平均単価の推移。 ，共販数量； ，共販単価